

学力調査結果の公表を如何に受け止めるか

北海道師範塾 塾頭 吉田洋一

平成25年11月29日、文部科学省は、全国の中学3年生と小学6年生の全国学力テストについて、来年度から学校別の結果を教育委員会の判断で公表する事を認めると発表しました。

この文部科学省の方針転換に対しては、既に市町村教育委員会や学校関係者から懸念の声が出ています。私も、単純に公表すれば良いとは思っておりませんが、同時に、学校はもっと保護者に対して主体的に説明責任を果たす努力をすべきだと思っています。

調査結果の公表に懸念（反対）の理由を拾い集めて見ると、概ね「学校間の順位付けや序列化が進む」「子ども達が傷付く、劣等感を持つ」という二つに集約できる様に思います。

学力調査は学校の順位付けの為にに行われているものではありませんが、調査結果の公表によって「学校の序列化」が進む可能性がある事は、私も否定しません。ただ、「学校の序列化」というものは、調査結果の公表を云々する以前に、それぞれの地域においては既に、学校に対し一定の評価がなされているのが現実ではないでしょうか。調査結果を公表すれば、その事がより明確になってしまう訳で、学校や教師が公表に反対する理由の一つはそこにあると思われまふ。しかし、この様な理由で調査結果の公表に反対している学校は、国語と算数（数学）という一部の教科による評価を跳ね返すだけの力のある教育実践が行われていないのではないか、というのは言い過ぎでしょうか。

また、学力調査の結果を公表すると、成績の悪かった学校の子ども達は、「傷付いたり、劣等感を持つのではないか」という事も良く聞かれます。

勿論、そういう子もいないとは限りませんが、教師に求められているのは、出来る子ももっと伸ばし、勉強の苦手な子には学習に興味を持たせ、少しでも伸びる様に指導し、確かな学力を身に付けさせる事であり、現実を曖昧にして「みんな一緒」で済ます事ではない筈です。

順位付けをし、競争を煽ったからといって子ども達の学力が上がるとは、私も思っておりません。しかし、学校には子ども達に確かな学力を保障する責任があるのであり、例えば、四則計算も満足に出来ない状況で中学校に心太の様に押し出す、そんな事で小学校は責任を果たしていると評価できるでしょうか。

結局のところ、調査結果の公表に反対する教師の方々は、子ども達のためと言いながら、実は「自分の実践力が問われ、評価される」事を恐れているからではないのか、と思えてなりません。

「子ども達のため」というけれども、それはもしかしたら思い込みかも知れないと疑ってみる必要があるでしょう。

その上で、どうする事が本当に子ども達の為になるのかを考え、実践する事が、教師の皆さんに、今求められている事だと思っています。